

ハルキ新作に「武蔵境」

文人の
武蔵野

村上春樹（1949年～）
もまた武蔵野の文人です。

2000年代に入ってから
なくして「武蔵野学」を構想
することになったとき、私の
脳裏に真っ先に思い浮かんだ
作家のひとりが村上春樹でし

村上春樹 ①



作家の村上春樹。「新潮」の今年
の5月号に「武蔵境のありくい
——△夏帆△その2」を発表した

た。
今から20年前、「村上春樹

と武蔵野」と言っても、耳目
を集めることはありませんで
したが、傍証を得る機会にも
恵まれました。また徐々に当
該テーマで執筆する論者も現
れ、今ではその重要度に確信
を抱いています。

それでも、50か国以上で翻
訳されている世界のハルキの
ことです。作品に「武蔵野」
が登場する以上、「村上春樹
と武蔵野」というテーマが成
立したとしても、枝葉末節を
捉えて我が田に水を引いてい
るだけではないか、とも言わ
れそうです。村上春樹の文学
の本質に武蔵野が関係するの

だろうか、と疑問を抱かれる
向きもあるでしょう。

というわけで、懸念を抱え
ながらも機会をうかがってい
たのですが、このたび村上春
樹の新作「武蔵境のありくい
——△夏帆△その2」（「新
潮」2025年5月号）が発
表されました。短編小説「夏
帆」（「新潮」24年6月号）
の続編で、原稿用紙130枚
の中編小説です。

「武蔵境」（武蔵野市）と
いう地名は、おそらく全国的
にはそれほど有名ではありま
せん。少なくとも、近隣の三
鷹や吉祥寺などと比べてもよ

く知られている場所とは言え
ないように思います。その武
蔵境が舞台となり、フラジル
とつながる場所として描かれ
ているのが本作です。

作品のタイトルになってい
る「武蔵境のありくい」とは
何を意味しているのでしょうか？
（敬称略）

（武蔵野大教授、むさし野
文学館館長・土屋忍）

*

過去の連載は、読売新聞オ
ンラインでお読みいただけま
す。スマートフォ
ンはQRコードか
ら。

